●ヤノナミガタチビタマムシの観察

大きなケヤキとムクノキが並んで生えています。
ケヤキの葉を見ると、虫に食害されているのがわかります。隣のムクノキの方が被害は大きく、葉脈だけになって、空が透けて見える葉が沢山ありますね。茶色く枯れている葉もあります。
食害したのは、体長 3㎜ ほどのタマムシ科のヤノナミガタチビタマムシです。
ムクノキやケヤキについて、葉を食害します。

越冬していた成虫が、5 月中旬から 6 月に出現して、葉の表に産卵します。
孵化した幼虫が葉の中に潜って葉の内部を食害するので、葉は枯れて、7 月に幼虫の入ったまま落葉します。幼虫は落葉内で蛹化して、8 月に羽化します。羽化した成虫は、ムクノキやケヤキの葉を食害して、10 月に樹皮下に潜り込み、越冬します。

ヤノナミガタチビタマムシ成虫の食痕（右）と成虫（下）

タマムシ科らしく成虫の体表には金属光沢がある

参考（6 月に撮影）
ヤノチビタマムシ幼虫に食入されている葉（左）と幼虫（下）

チビタマムシのなかまの幼虫はいずれも葉の内部に潜入して葉肉を食べる

学名 *Trachys yanoi* Y. Kurosawa, 1959 から、本種は 1959 年に黒沢良彦が、矢野宗幹（やのむねもと）に献名（生物に学名や和名をつけるとき、特定の人物などに敬意を表して、その名をつけること）してつけられたことがわかります。
ちなみに、矢野宗幹（1884-1970）は、東京帝国大学を卒業した昆虫学者で、東京昆虫学会（現日本昆虫学会）を創立し、日本昆虫学会会長、日本応用昆虫学会長を歴任しました。
また、黒沢良彦（1921-2001）は、九州帝国大学で江崎悌三に師事し、タマムシの研究で農学博士を取得した昆虫学者で、甲虫談話会（日本鞘翅学会の前身）を設立しました。ヤンバルテナガコガネを新種として記載したことでも有名です。　（鈴木信夫）

2025-3-7

Copyright © 2025NPO Sizen Kansatu Daigaku. All rights reserved.

戻る https://sizenkansatu.org/marugoto2025_3_rp.html